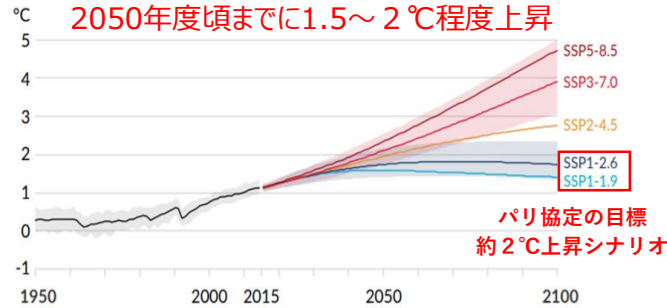


改定の背景とポイント

【背景】

- 気候変動の影響により、豪雨が激甚化・頻発化
- 水害リスクの増加に対応するため、基本方針を改定



2019(R元)年10月12日
秋川（あきる野市）

【ポイント】

- 気候変動に対応するため**目標降雨※**を引き上げ **+10ミリ**
- これまでの**対策の強化**に加え、**新たな施策**を展開
- 対策を**先行するエリア**を設定し、都内全域で**段階的に事業展開**
- 目標を超える降雨にも備える（**もしもの備え**）

※時間降雨規模（mm/hr）

気候変動に伴う1.1倍の降雨量に対応



気候変動を踏まえ、目標降雨を増加
都内全域で **+10ミリ**

〔区部75ミリ〕 → 〔区部85ミリ※〕
〔多摩部65ミリ〕 → 〔多摩部75ミリ※〕

※都内全域で気候変動を踏まえた年超過確率1/20規模相当

豪雨対策の現状と課題

現状の問題点

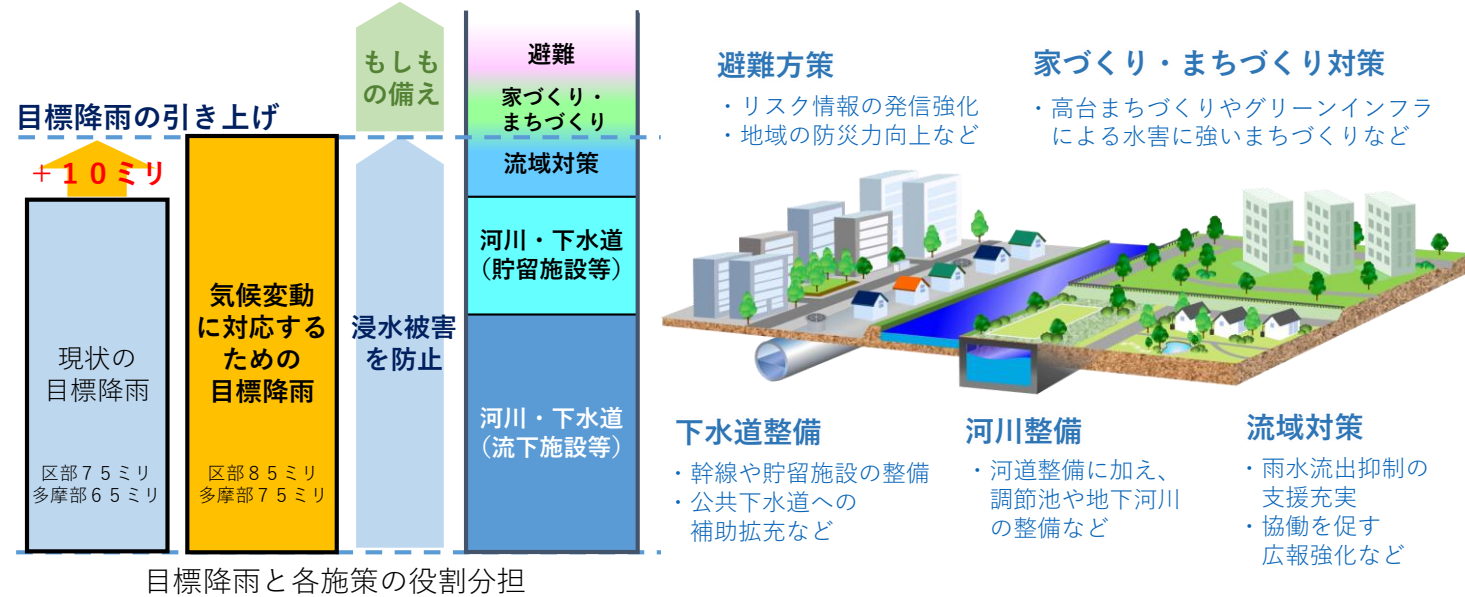
- 豪雨災害の機会と規模の増加
- ハード整備に要する期間
- 雨の降り方や整備主体の違い
- ハード整備を超える災害リスク
- 気候変動の予測の振れ幅

5つの課題

- 1 豪雨リスク増加への対応
- 2 事業効果の早期 発現
- 3 地域特性に合わせた対策手法
- 4 あらゆる関係者の協働
- 5 予想を超える降雨への備え

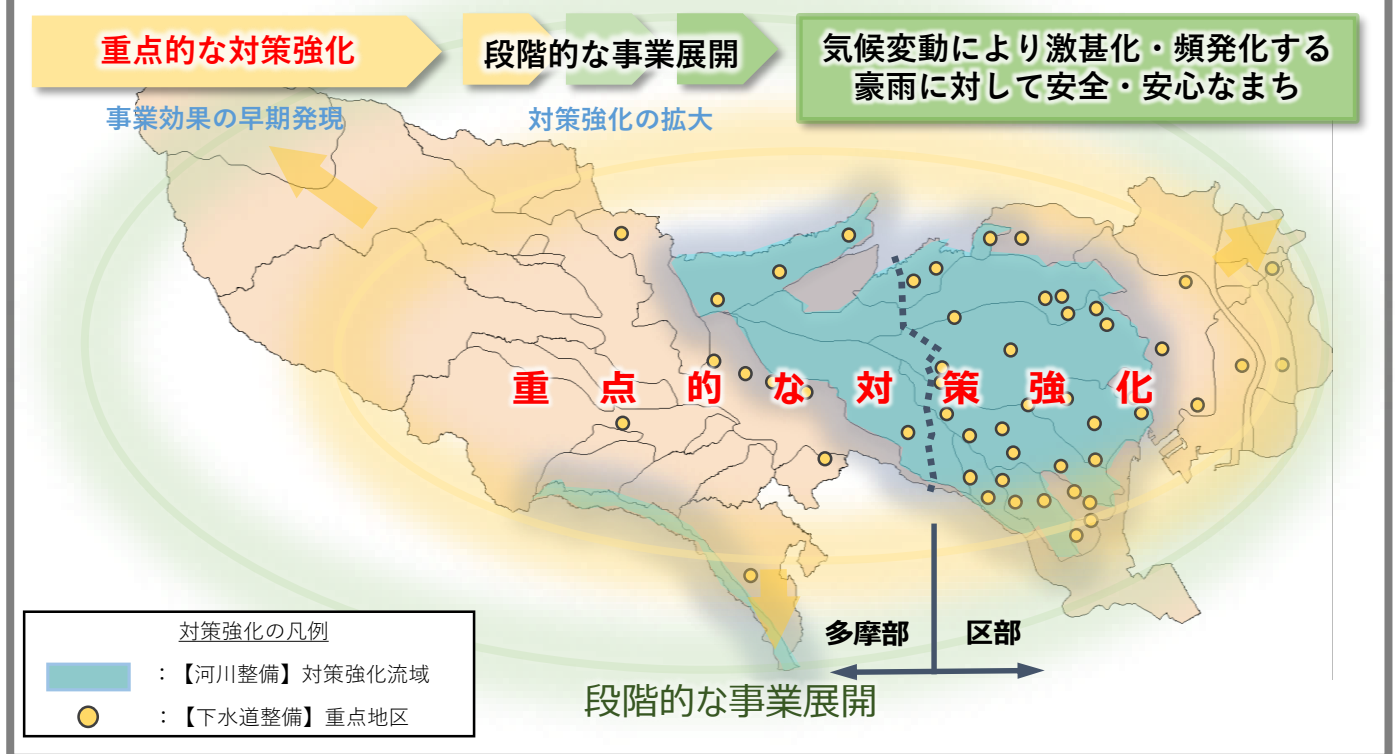
豪雨対策の基本方針

- 気候変動により**激甚化・頻発化する豪雨**に対して、**安全・安心なまち**を目指す
- 気候変動に伴う**降雨量の増加**（1.1倍）に対応するため、**目標降雨を引き上げ**
- 目標降雨に対して、主に**河川整備、下水道整備、流域対策**で浸水被害を防止
- 目標を超える降雨に対しても、**5つの施策**を組み合わせ、**もしものに備える**
- **重点的な対策強化**によって事業効果を早期発現し、都内全域で**段階的に事業展開**



目標降雨と各施策の役割分担

気候変動により激甚化・頻発化する豪雨に対して安全・安心なまち



具体的な取組（豪雨対策の5つの施策）

これまでの取組を加速・強化

※図・写真はイメージ

目標の引き上げ

効果的・効率的な事業推進

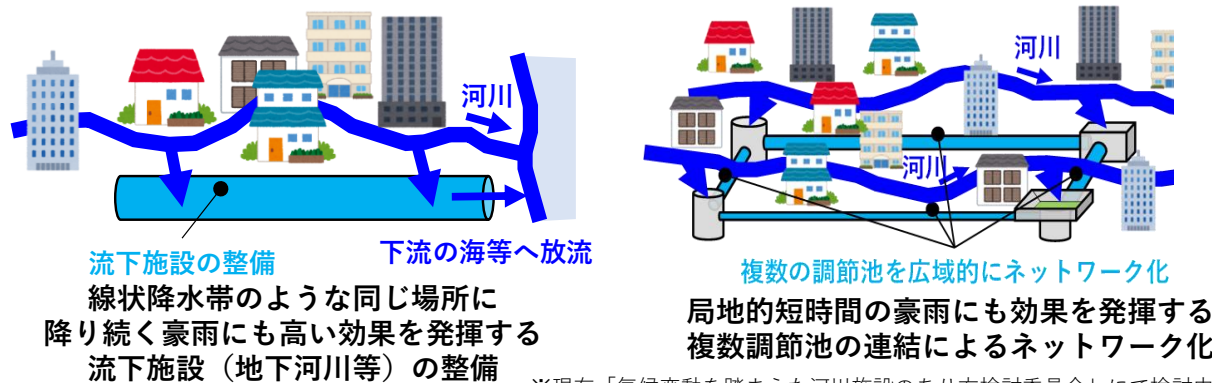
地域と連携した対策促進

協働を促す機運醸成

水害に強いまちづくり

施策1 外水はん濫を防ぐ「河川整備」

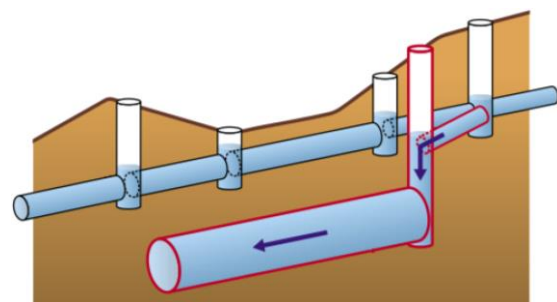
- 気候変動を踏まえた年超過確率1/20の規模の降雨に対応し、降雨量の増加分には、主に調節池で対応（流下施設（地下河川等）の整備や複数調節池の連結など）



※現在「気候変動を踏まえた河川施設のあり方検討委員会」にて検討中

施策2 内水はん濫を防ぐ「下水道整備」

- 浸水の危険性が高い地区を重点化し、幹線や貯留施設などの基幹施設の整備を推進
- 多摩部における市町村への補助による公共下水道の浸水対策支援など



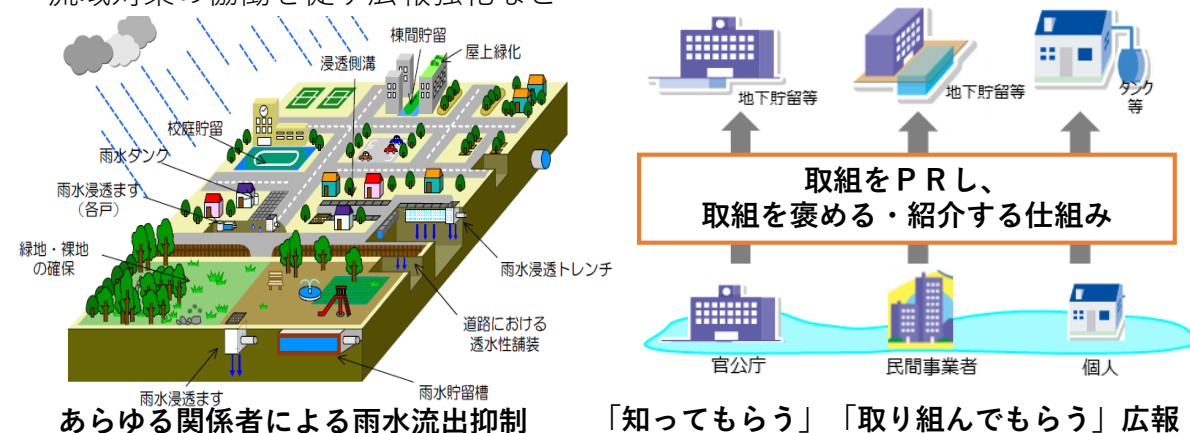
幹線や貯留施設などの基幹施設を整備



補助による公共下水道の浸水対策支援

施策3 雨水の流出を抑える「流域対策」

- あらゆる関係者による雨水流出抑制の取組への支援充実
- 流域対策の協働を促す広報強化など



施策4 水害に強い「家づくり・まちづくり対策」

- 高台まちづくり、グリーンインフラ等の水害に強いまちづくりの推進
- 地下街の避難訓練等の水害対策の推進など



避難場所にもなる高台まちづくり

都市開発等におけるレインガーデンや緑地の創出

地下街等の水害対策の推進

施策5 生命を守る「避難方策」

- 浸水予測の充実や河川水位等の情報発信強化
- 水害リスク等の情報を活用した地域の防災力向上など



豪雨対策の更なる推進に向けて

気候変動に対応した強靱で持続可能な首都東京を目指し、豪雨対策を着実に推進

- ✓ 豪雨対策を進める計画や取組の推進
- ✓ 都民や企業への情報発信強化
- ✓ 最新の技術や知見の活用
- ✓ みんなで取り組むための「人づくり」
- ✓ PDCAサイクルによる事業推進

水害に強い東京に向けて
みんなで取り組んでいく
「知る」「伝える」「行動する」



みんなで取り組むためのPRや防災教育など